



## 「すぐ」使える手話講座

手話は言語です。日常で簡単に使える手話を紹介します。今回は、ゴールデンウィークと母の日の手話です。皆さんも使ってみてください。

### ゴールデンウィーク

- ①左手は「5」、右手は上から下に動かして「月」を表します。
- ②手の平を下に向けて両手を中央に寄せる「休み」という手話を右から左へ繰り返し動かします。

5月

連休



### 母の日

- ①右手の人差し指で頬に触れた後、小指を立てて上に上げます。
- ②右手の人差し指を立てて、そこに左手の3本の指先を当てることで「日」を表現します。

母

日



次回の手話講座は、広報つるが7月号（6月9日発行）に掲載します。お楽しみに！



## 市街地賑わう 道路整備も完了

3月14、15日  
 「つるが街波祭」および  
 「神楽通り完成披露セレモニー」

「つるが街波祭」が神楽町1丁目商店街などの中心市街地で開催されました。朝市やマルシェ、音楽ライブなど27のイベントが行われ、2日間にわたり多くの来場者で賑わいました。15日は、「神楽通り完成披露セレモニー」も行われ関係者約70人と来場者らが完成を祝いました。式典で米澤市長は「20年前の計画段階から現在までの商店街や地元住民の方々の熱意と協力で敬意を表す。今後も新たな人流を生み賑わいを創出するため引き続きまちづくりを推進したい。」と式辞を述べました。神楽町1丁目商店街振興組合の中山喜美子理事長は「地元の方を大切にしながら観光客の方にもお立ち寄りいただき、交流の場となるような商店街にしていきたい。100年続く商店街を目指したい。」と挨拶しました。



## 世界レベルの躍動を体感

2月26日～3月2日  
 女子レスリング五輪・世界選手権選手  
 合同合宿 in 敦賀

福井県レスリング協会主催によるレスリング女子・日本代表選手の合同合宿が総合運動公園で開催されました。レスリング女子76kg級でパリ五輪を制した鏡優翔選手、同62kg級でパリ五輪を制した元木咲良選手らトップ選手29人が5日間の合宿を行いました。2/26は選手の歓迎セレモニーが開催され、選手団を代表し元木選手が「選手一同、この合宿で得たことをロス五輪などの大会に活かしたい。レスリングを通じ子どもたちと交流を図りたい。」と挨拶しました。2/28は市内外のレスリングクラブに所属する小中学生ら約70人が参加しレスリング教室やトークショーの交流事業が行われ、教室に参加した高橋海斗さん（松陵中・2年生）は、「全日本の選手とスパーリングできて刺激になった。全国大会で入賞できるよう頑張りたい。」と話していました。



## 豊作を祈願し踊り披露

2月22日 野坂だのせ祭り

室町時代から続くとされる豊作祈願の神事「野坂だのせ祭り」が開催され住民ら約50人が参加しました。祭りは1994年に県無形民俗文化財に指定。午前中に野坂神社で神事が行われ、午後から野坂公民館にて「だのせ踊り」が奉納されました。踊りには木をバチがわりに太鼓を打ち田を耕す様子を表した「田打踊り」と、杉を手に持ち田植えを演じる「田植踊り」があり、子どもと大人がそれぞれ6人一組となり、それぞれ交互に踊りを披露。「だーのせーのせーのや」と掛け声をかけながら迫力のある舞いを奉納しました。栗野小学校5年生の五味大智さんは「祭りへの参加は今年で3回目。仲間と一緒に踊るのは楽しい。来年も参加したい。」と話していました。



## 患者を幸せにする看護師へ

3月23日 市立看護大学学位記・修了証書授与式

市立看護大学にて学位記・修了証書授与式が行われ、看護学部看護学科55人、大学院看護学研究科4人、助産学専攻科7人の計66人が学び舎を巣立ちました。式では、内布敦子学長から1人ずつ名前を呼ばれ、学部、大学院、専攻科の代表者に学位記・修了証書が授与されました。その後、式辞で内布学長が「患者を幸せにする看護師は、看護師としても幸せ。皆さんが幸せな看護師になることを願っています。」と激励しました。卒業生答辞では、看護学部の柴田希美さんが「悩んだ時も新しい道へ進む時も後ろを振り向かなくてもいいくらい背中を押してくれた人達にこのお返しができるよう地に足をつけて頑張ります。」と決意を述べました。大学院生を除く卒業生62人のうち13人が県内の医療機関に就職します。



## まなびを通じて 人がつながる

3月21日 敦賀ちえなみき大学-Active Knowledge Commons- 開講

知育・啓発施設「ちえなみき」にて、丸善CHIホールディングス(株)が運営する「敦賀ちえなみき大学」が開講し市内外から約30人が参加しました。これは、一人ひとりがキャリアや経験の中で培った知識を互いに教え合い、学び合うことで、誰もが地域社会に貢献するとともに、健康で生き生きと自己実現ができる場を創出する取り組みです。第1回目となる今回は、敦賀市出身のアーティスト・ハシモトタカヒサ氏を講師に迎え、「パーソナリティとアイデアの作り方」をテーマに講義やワークショップなどが行われました。市内から参加した女性は、「地元出身で活躍されているアーティストだと知り興味が湧いた。アイデアを作る際の参考にします。」と話していました。令和8年度は、2～3カ月に1回の開催を予定しています。



## 敦賀港の安全確保へ

3月4日 敦賀海上保安部と敦賀美方消防組合の合同救助訓練

近年、敦賀港に大型クルーズ船の寄港が増加していることを踏まえ、不測の船舶事故に備えるため、敦賀海上保安部と敦賀美方消防組合は合同救助訓練を行いました。船舶事故を想定した合同訓練は初の試みで両機関から約40人の隊員らが参加しました。訓練は巡視船えちぜんを旅客船に見立て、煙が充満した機関室からの救助訓練や高さ10mのデッキからの要救助者搬送訓練などが行われました。敦賀海保の長崎克明部長は「対面形式で訓練ができたことが大きな成果。今後も1人でも多くの人命を救えるよう救助能力を高めたい。」と話していました。敦賀美方消防組合の前田一徳消防救急課長は「訓練を通じお互いの動きや資機材を確認できたことは、現場でのスムーズな連携につながる。」と話していました。



## 吉継公を大河ドラマ主人公に

2月27日 つるが大谷吉継公振興プロジェクト 市長表敬訪問

敦賀城主・大谷吉継の魅力発信し、敦賀への誘客や地域活性化につなげる市民活動団体「つるが大谷吉継公振興プロジェクト（つぐプロ）」が発足し、メンバーと武将隊大谷吉継が米澤市長を表敬訪問しました。つぐプロのメンバーは今後、市内外のイベントでの関連グッズ販売や、吉継公を主人公とした大河ドラマの誘致のため署名集めなどを行います。署名は「敦賀5万石」にちなみ5万筆を集めることを目指します。衆名仲次会長は「敦賀といえば大谷吉継というイメージが浸透するよう活動を頑張りたい。」と話していました。米澤市長は「これまで継続的な活動団体はなかった。市民の方を知ってもらう良い機会になる。」と述べました。